



SOS 子どもの村
JAPAN

リニューアル
しました!

News Letter

すべての子どもに愛ある家庭を

vol. **011**
2017.12
December



フオスタリングチェンジ・プログラム

ー里子を迎えた後に必要な支援

INTERVIEW

田原正則さん (子どもの村福岡 育親)





フォスタリングチェンジ プログラム

—里子を迎えた後に必要な支援

家族と暮らせない子どもたちのなかに、虐待を受けた子どもや障がいをもつ子どもが増えています。

里親家庭では、そんな子どもたち特有の言動に向き合い、悩むことの連続…。

SOS 子どもの村 JAPAN は、里子とよい関係を築いていくためのイギリス発祥の里親研修プログラム「フォスタリングチェンジ・プログラム」の普及に取り組んでいます。



■実子と異なる子育て

里親に委託される子どもの多くは虐待や分離体験などから心に傷をもっており、その回復の過程では、さまざまな形で育てづらい局面が表れます。激しい癩癩や物を壊すなどの“試し行動”といわれる言動や、情緒不安定からくる言動などです。子どもが里親とのやりとりのなかで、自分が大切にされる体験を積み重ねることで、自尊心や人に対する信頼を取り戻していく大切な過程ですが、自分たちだけで乗り越えるのはとても大変です。

「事前に勉強して頭ではわかっていたが、実際にどう対処していいかわからず、毎日疲れ切っていた」「愛情だけでは通用しないということをなかなか理解できず、愛情が足りないのかと自分を責めていた」

心身共にギリギリの状況のなかで、里子がやむなく施設に戻されたり、他の里親宅へ移されたりする「措置不調」は、里親委託のうち約 25%という高い割合で起こっています。里親にとっても辛い決断ですが、何より再び養育者に手放される子どもの心にさらに深い傷を残してしまいます。

■包括的な里親支援を

「このような事態を減らすために、里親になる前から委託後まで、里親を包括的に支えていくことが必要です」と話すのは、子ども家庭支援センターの松崎佳子センター長。現在、里親支援の内容は提供する自治体によって大きな差があり、静岡市のように里親支援を手厚くして措置不調率を減らした自治体がある一方で、里親専任職員が配置されていないなど体制が十分でないところも多数あります。

「里親支援を NPO など民間に委託することや、地域の里親会や児童養護施設などがそれぞれの特色をもって多方面から里親を支援するしくみをつくることで、里親の孤立を防ぐと共に、質の高い養育環境を整えることができます」（松崎）

日本では、2016 年に児童福祉法が改正され、2017 年 8 月に厚労省より「新しい社会的養育ビジョン」*が示されました。今後ますます里親が普及していくと思われるなか、里親支援の充実が早急に求められています。

※「新しい社会的養育ビジョン」の骨子

未就学児の施設入所は原則停止。平成 27 年度末 17.5%である里親委託率を、愛着形式に最も重要な時期である 3 歳未満については概ね 5 年以内に、それ以外の就学前の子どもについては概ね 7 年以内に 75% 以上を実現し、学童期以降は概ね 10 年以内を目途に 50% 以上を実現するという取組目標が示された。

この目標の実現には、里親への支援体制や、研修制度の充実、里親支援員の配置が必要となる。

フォスタリングチェンジ・プログラムとは？

What is Fostering Change Program?

■里親先進国イギリスの里親研修プログラム

「フォスタリングチェンジ・プログラム」は、里親委託率が70%を超えるイギリスで、養子縁組と里親に関わる専門家グループが開発した、里親の研修プログラムです。「子どもの問題行動に対応するための実践的なスキル」を習得できる構成となっており、里親と里子間のポジティブな関係づくりにおいて効果が実証されています。

このプログラムの日本導入に向けて、2015年にSOS子どもの村JAPANが企画委員会を立ち上げ、イギリスより講師を招いて福岡で日本初の「ファシリテーター養成講座」を開催し、20名のファシリテーターを養成しました。その後、2016年度に福岡と熊本、2017年度は久留米、大分も加わり、フォスタリングチェンジ・プログラムを開催。九州での実践を足掛かりに、今後は全国的に展開していく予定です。



○フォスタリングチェンジ・プログラムの特徴

- 1) すぐに役立つ実践的なスキルの習得
- 2) 継続的な研修、スキルアップができる
- 3) 里親が自分自身を大切にしながら学べる温かな雰囲気

■フォスタリングチェンジ・フラワーパワー

フォスタリングチェンジ・プログラムの内容を総合的に示した図。養育の基本として「温もり」と「観察」があり、中心に全スキルに共通する「肯定的な注目」（褒める、励ますなど、子どもの良い面に目を向けること）があります。プログラムはアタッチメント理論、社会的学習理論、認知行動理論に基づき、マニュアルに沿って進められます。



(上) 簡易版のハンドブック
(左) フォスタリングチェンジ・フラワーパワーの図

NEWS LETTERは、マンスリー支援会員限定の会報誌です。
全てのページをご覧になりたい方は会員登録をお願いします。